

平成18年度「福井元気宣言」推進に係る政策合意の取組結果

(平成19年3月末現在)

「福井元気宣言」の4つのビジョンを着実に実現していくため、平成18年4月に知事と合意をした「政策合意」の取組結果について、次のとおり報告します。

平成19年3月

土木部長 児玉 忠

I 総括コメント

- 平成18年度は、国土のネットワークを形成する高規格幹線道路の整備促進や災害を防止するための河川、砂防施設の整備促進など、社会基盤の整備を進めました。また、道路、河川等の日常パトロールを徹底し、危険箇所の早期発見に努め適切な対策を行うことで、安全で安心できる県土づくりに努めました。
- 中部縦貫自動車道の整備については、永平寺西・永平寺東間1.6kmが本年3月17日に開通しました。引き続き、上志比・勝山間の平成20年度の供用開始に向けて、国に対し強く働きかけていきます。さらに、大野油坂道路を含む全線が真に必要な道路に位置付けられ、国が策定することとなっている道路整備の中期的な計画に確実に組み込まれるよう関係各方面に訴えかけていきます。また、舞鶴若狭自動車道については、全ての地区において用地契約の団体調印を完了し、小浜西・敦賀間の約98%の用地を取得したことから、1日でも早く開通できるよう、引き続き、西日本および中日本高速道路株式会社に対し強く要請していきます。
- 福井豪雨等により被害を受けた公共施設の復旧工事については、本年6月末に全て完成します。また、足羽川の激特事業については、河床掘削予定の80万㎡のうち約75%が完成しました。砂防激特事業についても全50箇所において工事着手し、土砂災害警戒区域等の指定とあわせハード・ソフト両面から災害防止に取り組んでいます。
- 福井駅周辺整備については、西口駅前広場の拡張整備と西口中央地区再開発の都市計画決定に向けて、引き続き福井市と一体となって取り組んでいきます。また、えちぜん鉄道の高架化についても、構造や施工方法等の技術的な問題や整備手法、財源などの課題について引き続き検討していきます。
- 公共工事における入札制度の改善として、制限付き一般競争入札の対象拡大、電子入札の運用拡大などを実施しました。また、公共工事のより一層の品質確保に向け、総合評価落札方式を試行しました。今後とも、公正な競争の推進、品質確保の促進、透明性の向上などの観点から、さらなる改善を進めていきます。
- 地震時における人的および経済的被害を軽減させるため、多数の者が利用する建築物や住宅の耐震化の目標およびこの達成に向けた取組等を定めた福井県建築物耐震改修促進計画を昨年12月に策定しました。今後は、市町と連携して地震時における建築物の安全性の向上を図り、県民の生活の安全・安心に努めていきます。

II 「政策合意」の取組項目に係る結果について

- 別紙「平成18年度 取組項目に係る結果報告(土木部)」のとおり

平成18年度 取組項目に係る結果報告(土木部)

(平成19年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	土木部長	氏名	児玉 忠
取組項目		取組結果	
<p>○重点項目</p> <p>1 県民の視点に立った成果主義の公共事業</p> <p>公共事業の実施に当たっては、計画づくりから県民ニーズの反映に努めるとともに、現場見学会を実施するなど、県民の公共事業に対する理解を深める取組を行います。</p> <p>県民参加による「道づくり協議会」の開催 5箇所</p> <p>河川整備計画策定のための住民参加による流域委員会の開催 2委員会(九頭竜川水系、嶺南地域)</p> <p>足羽川ダム計画等について国と合同で説明会等を開催</p> <p>道路行政の成果について、「業績計画」と「達成度報告」を作成</p> <p>現場見学会の実施 参加人数 延べ1,000人以上</p> <p>ホームページで出先事務所の通行規制等の情報を提供 全土木事務所</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>県民参加による「道づくり協議会」や足羽川ダム計画等に関する説明会、現場見学会等を開催し、公共事業に対する理解の促進を図りました。</p> <p>県民参加による「道づくり協議会」の開催 丸岡川西線 布施田橋 など 5箇所</p> <p>河川整備計画策定のための住民参加による流域委員会の開催 九頭竜川水系:流域委員会 2回 19年2月 河川整備計画策定 嶺南地域:流域委員会 3回</p> <p>足羽川ダム計画等について国と合同で説明会等を開催 住民説明会:16回開催、約650名参加 シンポジウム:2回開催、約500名参加</p> <p>道路行政の成果について、「業績計画」と「達成度報告」を作成</p> <p>現場見学会の実施 延べ53現場 参加人数 延べ約3,083人</p> <p>全土木事務所でホームページを作成し、出先事務所管内の通行規制情報や雪に関する情報などを提供</p>	
<p>政策合意の実現に向けて、本庁と出先機関との連携強化を図るとともに、出先機関においては、現場主義を徹底し、県民が納得できるスピーディーで着実な事業の実施に努めます。また、県内の市町村合併を踏まえ、住民により身近な道路の管理業務について、市町への委託等を試行的に実施します。</p>		<p>[成果等] 取組を継続します。</p> <p>所長会、次長会を適宜開催するとともに、出先機関においても現場主義の徹底に努めました。</p> <p>市町が住民の協力を得ながら実施することが効果的と考えられる小学校周辺の歩道除雪について、試行的に南越前町に業務を委託することとなりました。平成18年度は降雪が少なかったことから、成果の検証ができなかったため、平成19年度以降においてもこの取組を継続し、成果の検証を行います。</p>	

平成18年度 取組項目に係る結果報告(土木部)

(平成19年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	土木部長	氏名	児玉 忠
取組項目		取組結果	
<p>2 災害に強い県土づくりの推進 一昨年の福井豪雨等により被害を受けた公共施設の復旧工事の完成を図ります。また、再度災害を防止するため、足羽川の激特事業、足羽川上流部や鞍谷川の河川災害復旧助成事業および一乗谷川などの災害関連事業を実施します。</p> <p>〔被災箇所の原形復旧工事については、18度中に完成〕</p> <p>改良復旧工事の工区完成 足羽川激特事業 右岸低水路掘削 日野川合流点より九十九橋上流 (L=約3km) 足羽川助成事業 築堤、護岸 JR第3橋梁～第5橋梁下流 (L=約2.8km) 鞍谷川助成事業 築堤、護岸 浅水川合流点～松成町下流 (L=約2.5km)</p>		<p>〔成果等〕 取組を継続します。</p> <p>福井豪雨により被害を受けた公共施設の復旧工事については、ほぼ完成しました。 足羽川激特事業は、低水路掘削については、日野川合流点よりJR橋下流まで(工事中の橋梁部除く)の約4km、堤防補強については木田地区などの上流約2kmにおいて完了しており、現在残る工事を進めています。また、泉橋、木田橋の架け替えのための下部工を実施中です。 足羽川上流部、鞍谷川の河川災害復旧助成事業および一乗谷川などの災害関連事業については、築堤、護岸の工事を進めています。</p> <p>〔原形復旧877箇所のうち875箇所完成(残る2箇所は7月豪雨の影響で6月末完成見込み)〕</p> <p>改良復旧工事の工区完成 足羽川激特事業 右岸低水路掘削 日野川合流点よりJR橋下流(L=約4km) 足羽川助成事業 築堤、護岸 JR第3橋梁～第5橋梁下流(L=約2.8km) 鞍谷川助成事業 築堤、護岸 浅水川合流点～松成町下流(L=約2.5km)</p>	
<p>一昨年の福井豪雨等の経験を踏まえて、浸水想定区域の情報提供等により、市町におけるハザードマップの作成を支援します。また、洪水時の情報提供を充実・強化するため、水位計等の増設を行うなど水防体制を強化します。</p> <p>〔ハザードマップ作成支援 4市町 水位計の増設(3箇所)および 監視カメラの増設(3箇所)〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>市町におけるハザードマップ作成を支援するとともに、水位計の増設を行うなど水防体制の強化を図りました。</p> <p>〔ハザードマップ作成支援 4市町 水位計の増設(3箇所)および 監視カメラの増設(3箇所)〕</p>	
<p>都市化の進展や近年の集中豪雨により浸水被害が多発しているため、市町と連携をとり、総合的な浸水対策に取り組めます。</p> <p>〔福井市狐川流域において取組〕</p>		<p>〔成果等〕 取組を継続します。</p> <p>狐川流域において、学識経験者や地域住民が参加した狐川流域内水対策連絡協議会の提言を受け、福井市と連携し、総合的な浸水対策を進めました。また、江端川流域についても江端川総合治水協議会を設立し、浸水対策の検討を行いました。</p> <p>〔「狐川総合内水対策計画」を策定 江端川総合治水協議会による浸水対策の検討〕</p>	
<p>砂防激特事業などの実施により土砂災害を防止するとともに、土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域等の指定を進め、土砂災害から県民が安全、迅速に避難できる体制づくりの支援に努めます。</p> <p>〔砂防激特事業 全50箇所において工事着手 土砂災害警戒区域等の指定 17年度までに1,294箇所指定 18年度 1,000箇所指定〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を上回って達成しました。</p> <p>砂防激特事業については、全50箇所において工事着手しました。あわせて、土砂災害警戒区域等の指定を進め、土砂災害から県民が安全、迅速に避難できる体制づくりの支援に努めました。</p> <p>〔砂防激特事業 全50箇所において工事着手 土砂災害警戒区域等の指定 18年度 1,972箇所指定 18年度までに 3,266箇所指定〕</p>	

平成18年度 取組項目に係る結果報告(土木部)

(平成19年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	土木部長	氏名	児玉 忠
取組項目		取組結果	
<p>県管理道路において、落石や崩壊の危険がある道路法面の安全点検を引き続き強化し、危険箇所を把握するとともに、落石対策工を実施します。また、通常のパトロールとは別に重点点検項目を定めた特別パトロールを計画的に実施します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>平成8年度に実施した道路法面の防災点検時には危険とされなかった箇所の再点検（一般県道、主要地方道）を実施し、危険箇所を把握することも、落石の危険がある箇所について対策工を実施しました。また、通常のパトロールとは別に重点点検項目を定めた特別パトロールを計画的に実施しました。</p>	
<p>〔道路法面の安全点検 約1,500箇所(県道分) 落石対策工 9箇所完成 (久坂中ノ畑小浜線 小浜市中ノ畑 など) 重点点検項目 トンネル、橋梁、交通安全施設〕</p>		<p>〔道路法面の安全点検 1,581箇所(県道分) 落石対策工 9箇所完成 (久坂中ノ畑小浜線 小浜市中ノ畑など) 重点点検項目 トンネル、橋梁、交通安全施設〕</p>	
<p>市町と協働して、住宅および多数の者が利用する建築物の耐震化を促進するための計画を策定するとともに、木造住宅の耐震診断への支援や耐震診断士の養成に取り組みます。</p>		<p>〔成果等〕 目標を一部達成しませんでした。</p> <p>庁内関係各課および県内市町で構成する連絡調整会議で検討を重ね、平成27年度までに住宅・建築物の耐震化率を90%とする「福井県建築物耐震改修促進計画」を平成18年12月に策定しました。</p> <p>木造住宅の耐震診断については目標の戸数を達成しました。また、耐震診断士の養成については、本年度は172名で目標達成にはいたりませんでした。平成19年度までの目標である1000人に向け、引き続き養成に努めていきます。</p>	
<p>〔木造住宅の耐震診断戸数 500戸 木造住宅耐震診断士の養成 400人〕</p>		<p>〔木造住宅の耐震診断戸数 500戸 木造住宅耐震診断士の養成 172名 ※774人(17年度からの累計)〕</p>	
<p>3 広域交流を促進する高規格幹線道路の整備 舞鶴若狭自動車道については、西日本・中日本両高速道路株式会社が示した平成26年度の全線開通予定をより一層早めるため、残る若狭町の7地区および美浜町の5地区での用地買収の完了に努めます。また、当面の開通目標である小浜西・小浜間についても、西日本高速道路株式会社が示した平成23年度予定をより一層早めるため、本区間の用地買収の完了に努めます。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>建設予定地にかかる全地区での団体調印を完了し、小浜西・敦賀間の約98パーセントの用地買収が完了しました。</p> <p>小浜・敦賀間において、若狭町の7地区および美浜町の5地区での用地買収を概ね完了しました。</p> <p>小浜西・小浜間においては、未買収が小浜市の2件(2地区)のみとなり、平成23年度中の開通に向けて、平成19年3月に用地買収促進のための地元説明会が開催されました。</p>	
<p>中部縦貫自動車道については、永平寺西・永平寺東間の今年度中の早期の開通に努めるとともに、上志比・勝山間の平成19年度中の開通を目指し、国と一体となって用地買収の完了、工事の促進に努めます。また、大野市の用地買収を概ね完了するとともに、福井・大野間全体の約9割の用地買収を目指します。さらに大野油坂道路が、平成19年度に新規着工準備箇所に採択されるよう国と協議を進めます。</p>		<p>〔成果等〕 取組を継続します。</p> <p>平成19年3月17日、永平寺西・永平寺東間が開通しました。</p> <p>福井・大野間全体において約87パーセントの用地買収が完了し、また、工事については、高架橋等の工事が施工中であり、全体の約3割を超える区間が完成または実施中です。</p> <p>上志比・勝山間については、新たな地盤改良が必要となったことや埋蔵文化財の調査範囲の拡大等の理由により、平成20年度中の開通を目指します。</p> <p>平成19年度は、中部縦貫自動車道全線が真に必要な道路に位置付けられ、道路整備の中期的な計画への確実な組み入れと併せ、大野油坂道路の早期事業化に向けて、年内に具体的なルート・構造を決定するよう、引き続き国に働きかけます。</p>	

平成18年度 取組項目に係る結果報告(土木部)

(平成19年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	土木部長	氏名	児玉 忠
取組項目		取組結果	
4	安全で安心できる快適な生活環境の実現 障害者、高齢者、子供等が安心して通行できる歩道の整備を推進するとともに、幅員が広い歩道において自転車と歩行者を分離するなど通行者にやさしい整備を行います。	[成果等]	目標を達成しました。
	道路のバリアフリー化距離 17年度までに 約67km整備 18年度 約2km整備 モデルロードの整備 1路線 福井停車場勝見線(東大通り)		安全で安心できる快適な生活環境の実現のため、歩道の新設や段差解消を行いました。また、幅員の広い福井停車場勝見線において自転車と歩行者を分離するとともに、段差解消を行うなど自転車や歩行者にやさしい整備を行いました。
			道路のバリアフリー化距離 17年度までに 約67km整備 18年度 約2km整備 モデルロードの整備 1路線 福井停車場勝見線(東大通り)
	道路の渋滞緩和のため、既存の道路敷を利用して交差点に右折レーンを設置するとともに、車道と軌道の交差点部における段差の解消に取り組めます。	[成果等]	目標を達成しました。
	交差点の右折レーン設置箇所 10箇所 (福井市花堂交差点など) 車道と軌道の段差解消 2箇所 (裁判所前交差点、田原町駅前交差点)		道路の渋滞緩和のため福井市花堂交差点など10箇所において、既存の道路敷を利用して右折レーンを設置しました。また、裁判所前交差点、東下交差点の2箇所において、車道と軌道の段差解消を図りました。
			交差点の右折レーン設置箇所 10箇所 福井市花堂交差点など 車道と軌道の段差解消 2箇所 裁判所前交差点、東下交差点
	「平成18年豪雪」の際は、北陸自動車道をはじめとする主要幹線道路の通行止め解除の見通しや迂回路の情報が不足したため、国および高速道路株式会社との情報連絡会を設置し、早期の情報提供に努めます。	[成果等]	目標を達成しました。
			大雪警報が発令され、主要幹線道路(北陸自動車道・国道8号)において交通事故や除雪障害が発生し、大規模な交通障害の発生が懸念される場合は、福井河川国道事務所に「福井県冬期道路情報連絡室」を設置し、県、国、中日本高速道路株式会社、県警察本部が情報を共有するとともに、報道機関に対し、県内の情報を迅速かつ一元的に提供することとしました。
	降雪初期のノーマルタイヤによるスリップ事故防止を図るため、タイヤチェック体制の強化、融雪装置の設置などを、国や高速道路株式会社に対し要望するとともに、倒木の未然防止対策として、降雪期前にパトロールを実施し倒木の恐れがある木の伐採を行います。	[成果等]	目標を達成しました。
			降雪初期のノーマルタイヤによるスリップ事故防止を図るため、タイヤチェック体制の強化、融雪装置の設置など雪害対策の強化について、国や中日本高速道路株式会社に対し、あらゆる機会を通じて要望した結果、除雪車を4梯団から6梯団に増強する他、積雪深にこだわらない機動的な除雪出動、従来の敦賀インターチェンジより前方の木ノ本インターチェンジでのタイヤチェックの徹底など、除雪体制の強化が図られました。また、倒木による交通や除雪の障害を未然に防止するため、所有者の協力を得ながら事前伐採や枝打ちを行いました。

平成18年度 取組項目に係る結果報告(土木部)

(平成19年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	土木部長	氏名	児玉 忠
取組項目		取組結果	
<p>消雪施設や雪崩防止施設の整備を促進するとともに、市街地交差点での除排雪の徹底、圧雪の早期除去、小学校周辺での通学路等の歩道除雪の徹底に加え、市町をはじめ自治会に対し、「みどりのスコープひとかき運動」の積極的な参加を呼びかけていきます。</p> <p>消雪施設の整備 17年度までに約270km整備 18年度 約6km整備 (福井四ヶ浦線 福井市加茂河原など)</p> <p>市街地交差点での除排雪 230箇所</p> <p>小学校周辺500m圏内の通学路およびJR主要駅周辺における県管理道路分の歩道除雪延長 145km</p> <p>「みどりのスコープひとかき運動」の設置箇所 32箇所(17年度)→100箇所(18年度)</p> <p>除雪機械運転者の技能向上のための実地講習会の開催 奥越地域</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>冬期通行の安全を確保するため、消雪施設や雪崩防止施設の整備を促進するとともに、市街地交差点での除排雪や小学校周辺での通学路等の歩道除雪の徹底に加え、「みどりのスコープひとかき運動」の積極的な参加を呼びかけました。また、除雪機械運転者の実地講習会を開催しました。</p> <p>消雪施設の整備 17年度までに約270km整備 18年度 約6km整備(福井四ヶ浦線 福井市加茂河原など)</p> <p>市街地交差点での除排雪 230箇所</p> <p>小学校周辺500m圏内の通学路およびJR主要駅周辺における県管理道路分の歩道除雪延長 145km</p> <p>「みどりのスコープひとかき運動」のスコープ設置箇所 32箇所(17年度)→100箇所(18年度)</p> <p>除雪機械運転者の技能向上のための 実地講習会の開催 「スキージャム勝山」において実施</p>	
<p>5 県民が夢と誇りを持てる県都の整備 えちぜん鉄道高架化事業の本体工事に着手するとともに、福井市と連携して福井駅前広場の都市計画決定を年度内に行うなど、福井駅周辺整備事業を着実に推進します。</p> <p>20年度の幸橋橋梁本体完成に向けた事業推進 工事進捗率17年度末81% →18年度末91%</p> <p>19年度の福井駅西口地下駐車場完成に向けた事業推進 工事進捗率17年度末62% →18年度末83%</p>		<p>〔成果等〕 取組を継続します。</p> <p>えちぜん鉄道高架化事業については、県議会等の意見を踏まえ、新たな案を検討することとなり、現在、国や鉄道・運輸機構等との協議を精力的に行っています。</p> <p>福井駅前西口広場の拡大については、福井市から地権者全員の合意が得られなかったとの報告があったため、年度内の都市計画決定を見送りました。引き続き都市計画決定に向け、福井市と一体となって取り組めます。</p> <p>幸橋整備事業については、橋梁本体工事の工程、工法の見直し等を行い工期短縮を図った結果、平成19年10月に鉄道のほか上下合わせて5車線の道路で通行ができる予定になりました。</p> <p>福井駅西口地下駐車場整備については、現在、地上への出入口や駐車場内部の設備工事を実施しており、平成19年10月の供用を目指しています。</p> <p>19年度の幸橋橋梁本体完成に向けた事業推進 工事進捗率17年度末81%→18年度末95%</p> <p>19年度の福井駅西口地下駐車場完成に向けた事業推進 工事進捗率17年度末62%→18年度末83%</p>	
<p>手寄地区市街地再開発組合が行う再開発ビルの年度内完成に向け、福井市と連携した指導・支援を行い、県都にふさわしい快適で安全な都市環境を整備します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>平成17年4月に着工した再開発ビル(AOSSA)は、当初の計画どおり平成19年3月に完成し、4月12日に竣工式を行い、4月19日にJR福井駅東口における交流拠点施設としてオープンする予定となりました。</p>	

平成18年度 取組項目に係る結果報告(土木部)

(平成19年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	土木部長	氏名	児玉 忠
取 組 項 目		取 組 結 果	
6 歴史的遺産の利活用 幸橋の整備については、旧幸橋建設時の昭和初期のイメージやデザインを取り入れ、福井市街地の玄関口としてふさわしい景観整備計画を策定します。		〔成果等〕 目標を達成しました。 県民パブリックコメント意見や景観検討会の検討結果を踏まえ、幸橋景観整備計画を策定しました。	
福井駅前地下駐車場整備工事で発掘された福井城跡の石垣（百間堀）を、駐車場脇の歩道で復元・展示します。		〔成果等〕 目標を達成しました。 福井駅西口地下駐車場で発掘された石垣を活かして、駐車場脇の歩道で当時の百間堀の一部を再現しました。	
国の登録有形文化財である「アカタン砂防堰堤」群の利活用を図るため、地元と連携して周辺環境の整備を行い、地域活性化を支援します。		〔成果等〕 目標を達成しました。 田倉川と暮らしの会、NPO法人福井県砂防ボランティア協会、日野川交流会、南越前町と「アカタン砂防歴史遺産活用促進検討会」を設け、アカタン砂防歴史遺産活用のための整備計画を策定し、住民の協力も得て施設の整備を行いました。 また、11月12日、町のイベント「秋の収穫祭」の一環として、完成した散策路を利用した「アカタン砂防堰堤見学ツアー」を田倉川と暮らしの会の語り部の協力のもと開催し、地域活性化を支援しました。	

平成18年度 取組項目に係る結果報告(土木部)

(平成19年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	土木部長	氏名	児玉 忠
取組項目		取組結果	
○個別項目 1 時代の変化に対応した公共事業等の推進 県内業者の受注機会拡大のため、分離・分割発注に努めるとともに、公正かつ透明性の高い入札・契約制度の改善に取り組みます。また、工事等のより一層の品質確保に向け、年内に総合評価落札方式を試行します。		[成果等] 目標を達成しました。 全ての工事発注案件について、できる限りの分離・分割発注に努めるとともに、公正かつ透明性の高い入札・契約制度の改善を進めました。 〔制限付き一般競争入札の対象を5億円以上から7千万円以上に拡大 指名競争入札の指名業者数を10者から12~15者に拡大 入札参加資格の審査基準の早期公表 悪質な独占禁止法違反者に対するペナルティを強化 総合評価落札方式(簡易型)を試行〕	
入札制度の透明性、業務の効率化などを図るため、電子入札の一部本運用を拡大し、平成19年度の本格運用を目指します。 〔3千万円以上の工事、5百万円以上の業務委託において実施〕		[成果等] 目標を達成しました。 平成18年5月から電子入札の運用を工事については3千万円以上、委託業務については5百万円以上に拡大しました。 〔電子入札案件数 911件 (17年度137件) 工事 …618件 (17年度 34件) 業務委託…293件 (17年度103件)〕	
良質な社会資本を、安全に低廉な費用で整備・維持するために、「公共工事コスト縮減対策に関する新行動計画」に基づき、公共事業のコスト縮減の取組みを促進します。 〔公共工事の総合コスト縮減率 16年度をベースとして6%縮減 (20年度までに12%縮減目標)〕		[成果等] 目標を達成しました。 より良いものをより早く、適正な価格で提供できるよう公共事業のコスト縮減を進めるとともに、県や市町など公共工事の発注機関に対する研修会の開催など行政機関の意識の向上にも努めました。 〔公共工事の総合コスト縮減率(16年度をベース) 6.4%(推計値)〕	
県産品の需要拡大を図るため、県発注工事における県産品の使用に努めるとともに、県産杉材の壁・床材や梁を使用した木造住宅などの研究開発・普及を推進し、民間での利用拡大に努めます。 〔公共工事における県産品活用率指数 (14年度を100とする) 125 県議会議事堂耐震改修工事における県産品の積極的活用 10%(工事費割合) 住宅における県産材活用に関するシンポジウム等の開催 参加人数 延べ200人 県産杉梁材等を活用した住宅建設の推進 2棟 間伐材を利用した木製ガードレールの設置 国道158号など〕		[成果等] 目標を達成しました。 公共工事における工事契約図書に県産品活用を明示するとともに、調達調書の提出を義務付けし、県産品の活用促進に努めました。 また、県産材を活用した住宅についてのシンポジウム等を行い普及広報に努めるとともに、森林組合と工務店が連携して県産杉材の梁や建材を流通させるシステムを開発し、天然乾燥した県産杉材による県産材住宅の建設推進に努めました。 〔公共工事における県産品活用率指数(14年度を100とする) 130(見込) 県議会議事堂耐震改修工事における県産品の積極的活用 10.5%(工事費割合) 住宅における県産材活用に関するシンポジウム等の開催 3回開催 参加人数 延べ234人 県産杉梁材等を活用した住宅建設の推進 7棟(部分的使用15棟) 間伐材を利用した木製ガードレールの設置 国道158号(福井市小和清水)など〕	

平成18年度 取組項目に係る結果報告(土木部)

(平成19年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	土木部長	氏名	児玉 忠
取組項目		取組結果	
福井県土地開発公社については、保有土地の処分を集中的に実施するとともに、解散について検討します。		[成果等] 取組を継続します。 公社が長期に保有する先行取得用地について、「公有地の拡大の推進に関する法律」の改正(平成18年8月施行)を踏まえ、地域再生計画に位置付けられた事業への活用等、処分や評価損の補てん方法を幅広く検討しています。また、解散の時期、公社職員の処遇等についても検討し、できる限り早い時期に具体案を取りまとめます。	
福井県住宅供給公社については、団塊世代向けに拡充したUターン者等への販売促進支援策等を活用して、現在保有している分譲宅地の早期売却を目指すとともに、解散について検討します。 [分譲宅地の売却区画数 15区画]		[成果等] 取組を継続します。 公社が保有する分譲宅地について、新たな販売促進支援制度の活用、定期的な現地販売会の実施、県外向けパンフレットの作成・活用など販売促進に努めた結果、13区画が売却できました。今後も、分譲宅地の早期売却に努めるとともに、解散について検討していきます。 [分譲宅地の売却区画数 13区画]	
県有建築物の長寿命化、ライフサイクルコストや環境負荷の低減を図るため、現地調査・診断をもとに保全計画書を試行的に作成します。 [対象施設数 2施設]		[成果等] 目標を達成しました。 県有建築物の長寿命化、ライフサイクルコストや環境負荷の低減方法を検討し、短期(3年以内)および長期(10年以内)に修繕・改修すべき内容をまとめた保全計画書を試行的に作成しました。 [対象施設数 2施設(福井合同庁舎、若狭歴史民俗資料館)]	
2 地域間の交流と連携の強化 「道路の将来ビジョン」に基づき県内や県外との交流・連携を強化するため、整備箇所の選択と集中を行い、早期完成を図ることで地域の道路網整備を推進します。 [整備完了路線 8路線 (県道武生美山線(清水谷トンネル)、(都)多賀竹原松ヶ崎線(みずとり大橋)など)]		[成果等] 目標を達成しました。 平成18年7月の国道365号(梅浦バイパス)、11月の県道武生美山線(新清水谷トンネル)の供用など、地域の道路網整備を推進し、地域間の交流と連携の強化を図りました。また、ホームページや新聞などにより、整備効果の広報活動にも努めました。 [整備完了路線 県道武生美山線(新清水谷トンネル)、(都)多賀竹原松ヶ崎線(こうのとり大橋) など8路線]	

平成18年度 取組項目に係る結果報告(土木部)

(平成19年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	土木部長	氏名	児玉 忠
取 組 項 目		取 組 結 果	
<p>小松空港へのアクセス向上のため、インターチェンジ新設について石川県と連携して、国、中日本高速道路株式会社に対し、早期実現に向けた協議を進めます。</p>		<p>〔成果等〕 取組を継続します。</p> <p>平成17年度に本県が行ったアンケート調査を基に、福井方面からの小松空港への高速道路利用者の実態を検証・把握するため、安宅PAを利用したETC専用インターチェンジ(スマートIC)の社会実験に取り組む方向で、石川県と協議を進めています。</p> <p>今後は、社会実験の結果を踏まえ、福井・石川両県で、国および中日本高速株式会社に対し、インターチェンジ新設を要望していきます。</p>	
<p>平成17年度に実施した交通実態調査(パーソントリップ調査)をもとに都市交通の現状分析を行い、課題を明らかにし、将来の交通施策を提案するとともに、調査データの有効活用を図るためのデータベースを整備します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を一部達成しませんでした。</p> <p>現状分析と将来予測をもとに、福井都市圏における都市交通の課題について整理し、将来の望ましい都市圏のあり方と、そのための交通施策を検討中です。</p> <p>調査データの有効活用を図るため、データベースを整備し、一部についてはホームページからダウンロードできるようにし、幅広く活用可能としました。</p>	
<p>敦賀港の貿易の振興と地域の活性化を図るため、鞠山南多目的国際ターミナルの平成19年度供用を目指し、港湾施設の整備を促進します。</p> <p>〔整備完了施設 敦賀港耐震強化岸壁(-5.5m) L=100m〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>敦賀港鞠山南多目的国際ターミナルの港湾施設の整備を促進しました。(事業費進捗率77%)</p> <p>また、敦賀港耐震強化岸壁(-5.5m)の整備を完了しました。</p> <p>〔整備完了施設 敦賀港耐震強化岸壁(-5.5m) L=100m〕</p>	
<p>3 環境との調和</p> <p>水と共生するまちづくりを目指し、関係部局と連携しながら足羽川等における親水空間の整備や保全にかかる全体構想を取りまとめます。また、足羽川については、関係住民の合意形成のもと、桜堤など河川の環境整備を行います。</p>		<p>〔成果等〕 取組を継続します。</p> <p>九頭竜川および永平寺川において、親水空間の整備や保全にかかる全体構想を取りまとめています。</p> <p>また、足羽川の桜堤については、地区住民説明会を6回実施し、概ねの理解を得ましたが、今後設計に当たって住民参加による協議会を開催するとともに、フォーラムの開催など一般県民の理解を得るよう努め環境整備を実施していきます。</p>	
<p>美しい河川環境を保全するため、河川の美化など河川愛護活動を行う団体に対し支援を行います。また、水と親しむ活動や自然体験に活用できる場を提供するため、遊歩道の整備や河原の復元など環境に配慮した河川事業を推進します。</p> <p>〔河川美化活動参加人数 延べ70,000人以上 水辺の楽校プロジェクトの推進 真名川(自然散策路の整備)〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>河川の草刈活動を実施した河川愛護団体に対し、経費の一部を助成しました。</p> <p>また、真名川(大野市新在家他)において、遊歩道約140m、河原の復元約3000㎡など環境に配慮した河川事業を推進しました。</p> <p>〔河川美化活動参加人数 70,651人参加 水辺の楽校プロジェクトの推進 真名川(自然散策路の整備)〕</p>	

平成18年度 取組項目に係る結果報告(土木部)

(平成19年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	土木部長	氏名	児玉 忠
取組項目		取組結果	
循環型社会の構築に向け、市町や関係機関と協力し、発生の抑制、再使用、再生利用、適正処理の観点から、公共事業における建設発生土について民間工事への活用も含めた有効利用策を拡充するとともに、下水汚泥のリサイクルの推進に努めます。		[成果等] 目標を達成しました。 公共工事において発生する土砂の有効利用のため、発生と受入れについて各発注機関と調整するとともに、昨年度から引き続き民間公募を実施するなどリサイクルの推進に努めました。 下水汚泥のリサイクル率について、セメント原料などの有効利用を図り、前年度より8%増加し65%となりました。	
[建設発生土の有効利用率 18年度 78% 下水汚泥のリサイクル率 18年度 61%]		[建設発生土の有効利用率 18年度 78%(推計値:県分のみ) ※民間公募の実績27件、約20千㎡ 下水汚泥のリサイクル率 18年度 65%]	
県民の財産でもある道路を常に美しく良好な状態に保つため、市町と協力し歩道の清掃や花の植栽について住民協力の輪を広げていきます。		[成果等] 目標を達成しました。 福井丸岡線(フェニックス通り)の福井市大手3丁目～順化1丁目他、県内10箇所において、地元商店街や地元団体等の協力を得て、歩道や道路の余裕スペースに花を植栽しました。	
[道路の余裕スペースにおける花植え数 10箇所]		[道路の余裕スペースにおける花植え数 竹波立石縄間線(敦賀市色浜)など11箇所]	
安心で快適な住環境の実現を目指し、住宅のバリアフリー化、省エネ化などを進めます。		[成果等] 目標達成にはいたりませんでした。 各種広報媒体でのPR、建築関係団体への働きかけなどを行い、より良質な木造住宅の普及に努めましたが、目標とする戸数への支援にはいたりませんでした。安心で快適な住環境の実現のため、今後も、普及に努めていきます。	
[高齢社会に対応した安心で快適な住宅の普及 220戸]		[高齢社会に対応した安心で快適な住宅の普及 173戸]	
冬期のみ稼動する消雪装置等の通年利用について検討を行います。		[成果等] 目標を達成しました。 冬期のみ稼動する消雪装置等の通年利用について検討を行い、御本丸大手線(福井市大手3丁目)において夏季散水を試行しました。今後は、今年度の結果を踏まえ、効果的な場所なども含め検討して行きます。	
[温度上昇を抑制した涼しい道路空間の形成を目的とした消雪施設の夏季散水の試行]		[御本丸大手線(福井市大手3丁目)において、8月上旬に消雪施設の夏季散水を試行]	
4 個性と魅力あるまちづくり ゆとりある住環境の形成など、地域の特性を活かした魅力あるまちづくりを進めるため、「福井県まちづくりアドバイザー派遣制度」等により、地区計画制度や建築協定制度などを活用した地域住民の自主的なまちづくりを支援します。		[成果等] 目標を達成しました。 良好な住環境の形成が図られつつある9地区についての情報を宅地供給団体と連携して広報するとともに、福井県まちづくりアドバイザーを6地区に派遣するなど、地域の自主的なまちづくりを支援しました。	
[まちづくりアドバイザー派遣地区数 5地区]		[まちづくりアドバイザー派遣地区数 6地区]	

平成18年度 取組項目に係る結果報告(土木部)
(平成19年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割を超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・取組を継続します。(例:成果を上げるためには年度を超えて取り組む必要のあるもの)

役職	土木部長	氏名	児玉 忠
取組項目		取組結果	
既設住宅の有効活用を図るため、「住まいの履歴書」を県内全戸に配布するとともに、空き家情報を市町等と連携して県が一元的に提供する「ふくい空き家情報バンク」を創設し、住宅の所有者や県内外の住宅を求める人が空き家を活用しやすい環境を整備します。		〔成果等〕 目標を上回って達成しました。 住宅の修繕履歴や手入れ状況などが記入できる「住まいの履歴書」を作成し、県内全戸に配布するとともに、10月第3日曜日を「住まいの点検の日」とし、「住まいの履歴書」の活用を通じた住まいの維持管理の重要性をPRしました。 平成18年8月に「ふくい空き家情報バンク」を県ホームページに開設し、県内市町および民間等の空き家情報の一元的な提供を始めました。	
〔空き家登録戸数 100戸〕		〔空き家登録戸数 130戸〕	
丹南地域総合公園の整備については、用地の取得に着手します。		〔成果等〕 目標を達成しました。 平成19年2月に用地買収面積を確定し、地権者説明会を開催するなど用地取得に着手しました。今後も、交渉を継続し、用地取得に取り組みます。	
美しい街並み景観を創出するため、電線類管理者と協議し、無電柱化を推進します。		〔成果等〕 目標を達成しました。 美しい街並み景観を創出するため、電線類の地中化工事を推進しています。	
〔電線類の地中化工事 4箇所 (殿下福井線 福井市順化など)〕		〔電線類の地中化工事 2箇所完成 福井加賀線(福井市豊島～中央)、吉野福井線(福井市日之出～宝永) 2箇所継続 殿下福井線(福井市順化)、福井丸岡線(福井市春山～田原)〕	
あたたかみのある街路景観および夜間景観を創出するため、昨年度に引き続き福井市中心部においてオレンジ色の道路照明を整備します。		〔成果等〕 目標を達成しました。 県道福井加賀線(城の橋線)他においてオレンジ照明を整備し、あたたかみのある夜間景観を創出しました。	
〔福井加賀線(城の橋線)、吉野福井線(中央線)などにおいて実施〕		〔福井加賀線(城の橋線)、吉野福井線(中央線)など福井市3路線、敦賀市4路線において実施〕	
5 「ふくい2030年の姿」の具体化「スロードライブ社会」の実現を目指し、歩行者や自転車を優先し車のスピードを上げさせない道路づくりを進めるため減速マークや段差舗装の設置を推進します。		〔成果等〕 目標を達成しました。 一般県道鯖江清水線(福井市森行町)他で減速マークを設置するとともに国道476号(福井市深坂町)において段差舗装を施工するなど、歩行者や自転車を優先し車のスピードを上げさせない道路づくりを行いました。	